

1 調査日 平成22年11月9日（火）～10日（水）

2 調査の概要

11月9日（火）

（1）広島県議会（広島県広島市）

広島県では、平成16年度から平成20年度にかけて、広島県公共事業コスト縮減プログラムに基づいたコスト縮減に取り組み、プログラムの最終年度には、縮減率は15.1%を達成した。しかし、さらに厳しい財政事情が続くことから、平成21年12月に、新たに広島県公共事業コスト構造改革プログラムを策定し、これまでのコスト縮減を重視した取り組みから、コストと品質の両面を重視する取り組みへの転換を図ることとした。本県においても、今後も厳しい財政状況が見込まれる中、広島県の取り組みについて調査を行った。



また、国土交通省中国地方整備局と広島県では、豪雨災害等の総合的な水害、土砂災害対策を効果的、効率的に進めるため、広島県を4つの圏域に分割した総合流域防災調整会議を各圏域ごとに設立し、国と県が連携した圏域の安全度の確保状況等の調査等を実施して事業の調整を行っていることから、本県における治水政策の参考とするため調査を行った。

さらに、広島県ではアダプト制度に基づき、住民や企業などの団体が道路や河川などで散乱しているごみの清掃や植栽等をボランティアで行う活動を支援する取り組みを行っており、行政と住民等の協働による公共施設の管理方法について調査を行った。

（2）エソール広島（広島県広島市）

エソール広島とは広島県女性総合センターの愛称で、平成元年に広島県の女性の地位向上と社会参画活動の拠点施設として建設された。その管理運営は財団法人広島県女性会議が行っており、男女共同参画社会の実現を目指した事業を展開しているところであり、その中核的拠点としての取り組みについて調査を行った。



11月10日（水）

（３）ALSOKホール（広島県広島市）

広島県立文化芸術ホールでは、広島県が平成19年に日本郵政公社から施設を取得し、同年7月よりネーミングライツを導入して、その呼称をALSOKホールとしている。また、指定管理者制度の導入により管理運営が行われている。そこで、施設の概要、指定管理者制度、ネーミングライツ、県立の文化芸術ホールとしての経営状況等について調査を行った。



（４）尾道市議会（広島県尾道市）

尾道市は、瀬戸内と内陸の豊かな自然を背景として、歴史、文化、産業などの多彩な地域資源が織りなす特徴ある景観を形成している地域であり、これまでから景観の保全と創造に積極的な取り組みが行われてきた。平成19年度からは旧尾道市・旧向島町において、景観計画や景観条例の規定に基づき、景観地区の指定による新たな取り組みが行われるとともに、平成22年度からは、尾道市景観計画区域が市内全域に拡大されていることから、尾道市における景観行政への取り組みについて調査を行った。



（５）おのみち映画資料館（広島県尾道市）

活力あふれ感性息づく芸術文化のまちの実現を目指している尾道市では、小津安二郎監督の「東京物語」を初め、これまで数多くの映画撮影が行われている。おのみち映画資料館では、尾道ゆかりの映画資料などを展示しており、映画の街としての尾道文化について調査を行った。

